

# Economic Indicators

発表日：2024年10月31日(木)

## 鉱工業生産(2024年9月)

～7-9月期は2四半期ぶりの減産～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
23年	1月	▲3.6	▲3.0	▲2.8	▲3.1	▲0.3	2.5	2.1	9.9	▲9.5	▲5.5	▲1.8	0.8
	2月	3.4	▲0.5	3.9	0.7	0.6	1.5	▲1.2	6.0	6.2	2.4	4.4	4.3
	3月	0.4	▲0.8	0.5	0.1	0.2	2.2	0.9	8.6	▲0.7	0.2	0.6	5.8
	4月	0.3	▲0.8	▲0.5	▲1.4	1.3	6.0	1.4	12.7	▲0.8	▲3.4	0.4	4.1
	5月	▲1.0	4.1	▲0.3	3.8	0.6	7.2	1.0	8.8	1.2	2.8	1.1	9.9
	6月	0.9	▲0.1	0.8	0.7	0.0	5.7	▲0.6	9.8	▲0.7	▲1.3	▲1.0	5.1
	7月	▲1.4	▲2.6	▲1.3	▲2.0	0.2	5.5	0.8	9.8	▲2.9	▲10.9	▲0.4	3.4
	8月	▲0.4	▲4.7	▲0.2	▲3.1	▲1.1	3.0	▲0.5	9.2	0.3	▲14.3	▲1.1	1.7
	9月	0.1	▲4.5	0.6	▲2.4	▲0.9	0.0	▲1.2	4.3	▲1.3	▲13.2	1.4	2.4
	10月	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	▲0.2	4.1	1.0	▲6.8	1.4	7.2
	11月	▲0.6	▲1.6	▲0.8	▲1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	▲2.0	▲8.5	▲1.3	3.0
	12月	1.2	▲1.1	1.6	0.2	▲0.9	▲0.5	▲2.3	2.3	6.0	▲2.9	▲0.1	1.0
24年	1月	▲6.7	▲1.5	▲7.5	▲1.7	▲1.7	▲1.8	2.6	0.8	▲4.9	2.7	▲5.2	1.3
	2月	▲0.6	▲3.9	▲0.7	▲4.7	0.6	▲1.7	▲5.6	1.9	▲4.1	▲5.1	▲1.9	▲2.5
	3月	4.4	▲6.2	4.7	▲6.8	1.0	▲1.0	7.6	6.8	7.9	▲4.2	4.1	▲6.0
	4月	▲0.9	▲1.8	▲0.4	▲1.4	▲0.2	▲2.4	▲0.7	0.5	▲0.1	3.1	▲0.9	▲1.3
	5月	3.6	1.1	3.9	1.3	0.9	▲2.1	▲1.2	▲1.5	0.9	▲0.6	8.3	2.7
	6月	▲4.2	▲7.9	▲4.7	▲8.1	▲0.7	▲2.7	1.7	4.8	▲10.6	▲13.5	▲5.4	▲5.0
	7月	3.1	2.9	2.7	2.0	0.4	▲2.5	▲2.4	▲3.9	7.0	1.9	1.5	2.9
	8月	▲3.3	▲4.9	▲4.1	▲6.5	▲0.8	▲2.2	5.3	5.9	▲4.1	▲7.3	▲3.0	▲3.7
	9月	1.4	▲2.8	2.3	▲4.3	0.1	▲1.3	▲3.8	3.0	▲2.1	▲6.5	0.1	▲3.4
	10月	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11月	▲3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

(注)24年10月、11月は、製造工業生産予測調査の数値

### ○7-9月期は2四半期ぶりの減産

経済産業省から公表された24年9月の鉱工業生産は前月比+1.4%となった(事前予想コンセンサス:同+1.0%、筆者予想:+1.4%)。2か月ぶりの上昇となったが、前月は8月の台風の影響を受け、自動車をはじめとした幅広い業種で落ち込んでいた(8月:同▲3.3%)。今回はその反動が出た側面が大きい。実際に、四半期で見れば7-9月期は前期比▲0.4%と、2四半期ぶりの減産となった。鉱工業生産は四半期ごとに増産と減産を繰り返す、一進一退の状況が続いている。

9月の生産を業種別にみると、輸送機械(前月比+5.8%、寄与度+0.89%pt)、電気機械(前月比+4.6%、寄与度+0.32%pt)等が上昇した一方で、生産用機械(前月比▲1.7%、寄与度▲0.14%pt)、情報通信機械(前月比▲6.1%、寄与度▲0.10%pt)等で低下が続いた。

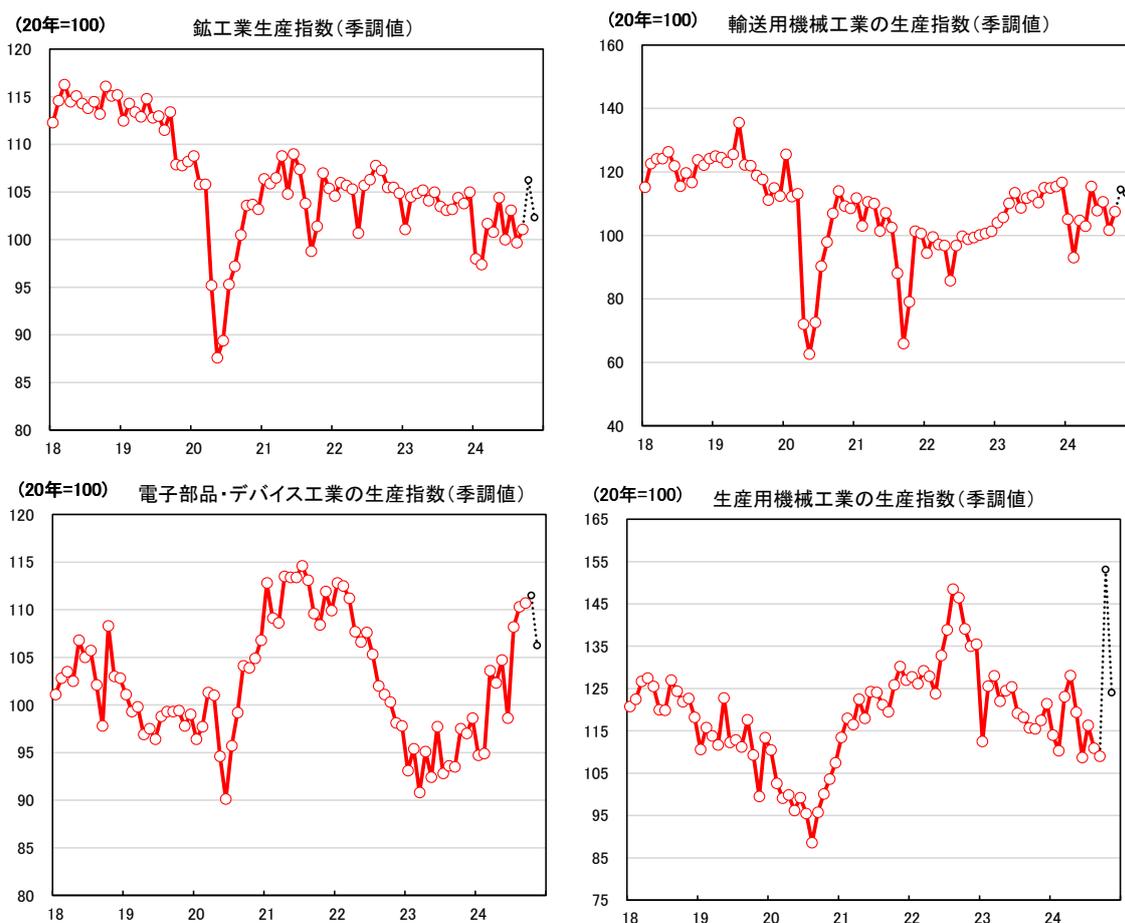
また、7-9月期の生産を業種別にみると、世界的な半導体需要の回復を背景に、電子部品・デバイスが前期比+7.7%(4-6月期:+4.3%)、電気機械が同+4.1%(4-6月期:+2.5%)と前期から伸びが加速し、全体を牽引した。その一方で、工場停止の影響を受けて輸送用機械が同▲2.0%(4-6月期:+7.7%)と2四半期ぶりの減産となったほか、海外経済の減速を受けて資本財を多く含む生産用機械が同▲5.6%(4-6月期:+2.5%)と低下するなど低調が続いた。

## ○先行きは電子・デバイスの減速に懸念

同時に公表された製造工業予測指数は、10月が前月比+8.3%、11月が同▲3.7%となった。もっとも、予測指数には上振れバイアスがあるため、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値で見ると、10月は同+5.1%の上昇になる。9月の上昇のあと、10月も高めの伸びが見込まれているものの、業種別内訳をみると生産用機械が前月比+40.5%（寄与度+2.62%pt）と牽引する見込みだ。生産用機械は極端な振れが出やすく、一時的な上昇に留まる可能性に注意が必要だろう。

また、7-9月期を牽引してきた電子部品・デバイスは、先行きは10月が同+0.7%、11月が同▲4.7%と控えめな計画になっている。在庫率指数に目を向けると、7-9月期は23年1-3月期ぶりに上昇に転じており（前期比+2.8%）、出荷の増勢にも鈍化がみえはじめている。半導体関連は輸出動向にも影響を受けやすく、電気機械の実質輸出に目を向けるとASEAN等アジア向けは堅調なもの、中国や欧米といった主要貿易相手国では伸び悩んだままである。これまで生産の下支えとなってきた電子部品・デバイスも、先行きは減速する可能性が高そうだ。

主力の輸送機械は、自動車の不正認証問題の影響が緩和するものの、海外需要の弱まりによって自動車輸出も冴えないことから、先行きも回復ペースは緩やかに留まるとみている（輸送用機械の生産計画：10月+6.5%、11月▲1.1%）。生産の牽引役が不在の中で、10-12月期も一進一退の停滞感の強い状況が続きそうだ。生産の持ち直しのきっかけとしては、利下げ局面に転換した欧米諸国における製造業部門の持ち直しなどが挙げられるものの、まだ時間を要するだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。